

平成30年度宮崎県立高城高等学校との連携事業報告

— 「課題研究」ナタ・サポの取組み —

古賀 隆一
早川 純子
藤本 朋美
宮内 孝

平成29年3月28日(火) 南九州大学と宮崎県立高城高等学校による連携協定を締結した。「相互の資源及び機能を活かし、教育・研究及び地域社会の発展に資すること」が本協定の締結の目的である。連携事項は、「1.教育の充実・発展に関すること」「2.学術研究の充実・発展に関すること」「3.地域社会の発展に関すること」「4.その他、双方が必要と認める事項」であった。

そこで、人間発達学部子ども教育学科は、この協定に基づいて高城高等学校の生徒が取り組む課題研究、特に保育分野の学習支援「ナタ・サポ」に取り組んだ。「ナタ」とは、南九州大学を南(ナ)大(タ)と呼び、「サポ」とはサポートを意味する。

本年度は、本学科教員が下記の2つの内容についてサポートした。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指した学習支援
2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のための学習支援

本稿では、このサポートの概要について報告する。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指したサポート

保育分野において必要な、表現リズム、造形、言語表現の知識や技術習得を意図とした学習支援である。具体的には、下記の目的が高校から示された。

○衣食住・保育等のスペシャリスト育成のため、学習の高度化を図った学習に取り組む。具体的には、保育検定の分野にもなっている表現リズム、造形、言語表現などに関する実技指導の充実を図る。

○大学と連携をした授業を展開することで、より専門性の高い学習へ興味関心がわき、将来、大学に進学し、地域貢献できる人材育成に繋げる。

このような目標達成に向けて、本学科教員が下記の講義を行った。

(1) 造形 担当：古賀 隆一

◇日時：平成30年6月15日(金)

13時30分～15時00分

◇対象：3年生：8名 生活情報科

◇場所：宮崎県立高城高等学校会議室

◇講座内容

高校3年生で幼児教育に関心のある方が少数で8名受講。本学が幼、保、小、特支の教員資格取得を目標としているところから、幼児教育の中でも造形表現、図画工作教育の分野で幼児画見方についてお話をした。まず初めに大人と子どもの絵画表現の違いを認識するところから、理解を進める必要性を述べた。子どもの絵の捉え方を理解する上で、幼児期の発達段階から見た心象表現は感性の働きや情操教育の想像性から創造力が生まれ、人間形成や人間力に繋がることを伝えた。掛け図を使って美術の基本的な色彩や基礎デッサンについても解説した。色の成り立ちや、デッサンで使用する明暗の考え方や使い方の捉え方は、作例を基に説明を加えた。実習は模型の蜜柑や林檎などの球体近いものを描く鉛筆デッサンの描画実践をした。美術は生活の中で文化の原点の一つでもあるから、幼少期の無文字時代の子どもの表現教育には、特に指導と援助の方法について学習研究の必要性を強調した。短い時間だったが、生徒の皆さんの真剣な眼差しが伝わる講座だった。



(2) 表現リズム 担当：早川 純子

◇日 時：

- ① 平成30年 5月11日(金) 13時30分～15時00分
- ② 平成30年 5月29日(火) 13時30分～15時00分
- ③ 平成30年 7月 6日(金) 13時30分～15時00分
- ④ 平成30年10月22日(月) 15時15分～16時45分
- ⑤ 平成30年11月26日(月) 15時15分～16時45分
- ⑥ 平成30年12月20日(木) 15時30分～16時30分
- ⑦ 平成30年12月25日(水) 13時30分～14時30分

◇対 象：2年生 (6名)、3年生 (3名)

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「表現リズム」をテーマとする本講座の目的は、保育者に求められる基礎的な音楽力を育成することである。参加者の多くは保育検定の受験を控えた生徒であったため、検定試験内容に含まれるピアノ実技を中心に、ピアノソロと弾き歌いの個人レッスンを実施してきた。

通常の授業や部活動に加え、食物調理や被服制作といった他の家庭科技術検定の準備と並行しながらの練習や勉強であるため、生徒達は時間をやりくりしながら、限られた時間の中で集中して技術の向上に励んでいた。なかには、独学でかなり演奏技術を伸ばしている生徒もあり、検定合格への強い意志と志の高さを感じさせた。

検定試験は夏季及び冬季の年2回実施され、3年生は1級ないし2級、2年生は2級ないし3級の受験を目指していた。いずれの級でも、課題曲が予め数曲指定され、そのうちの1曲が検定試験の1週間前に試験曲として絞られる。2級と3級は、ピアノソロであるバイエルの楽曲。1級は、バイエルのうち難度の高い楽曲と弾き歌いの曲を弾き

こなさなければならない。弾き歌いは、全国統一の保育士試験と同じ課題曲が用いられているが、オリジナルの楽譜が指定されている検定試験の方が、難易度は高い。

短期間の指導でピアノや弾き歌いの技術を伸ばすことは容易ではないが、生徒達の目標達成への意志の強さと高い意欲により、目を見張る上達を見せている。今後は、鍵盤技術だけでなく、保育現場で活用できる多様な保育技術を含めた総合的な音楽力も育成していけるよう指導に努めたい。

(3) 言 語 担当：藤本 朋美

◇日 時：1) 平成30年 6月 8日 (金)

2) 平成30年 6月29日 (金)

いずれも13時25分～15時15分

◇対 象：3年生

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：第1回 言葉を育てる遊び

- ①保育・幼児教育においてなぜ「絵本」が重要とされるのか、その意味について考える。
- ②「言葉を育てる遊び」にはどのような遊びがあるのか、その種類を知る。(児童文化財：絵本、紙芝居、お話、わらべうた、言葉遊び等)
- ③「絵本」を通して子どもたちに何が育つのかを考える。
- ④絵本の読み聞かせを行い、その留意点を知る。

以上4点をねらいとして、実際に絵本に触れながら演習形式で行った。

絵本の多様さを知ってほしいと考え、各回ともに20冊程度の絵本を持参した。幼いころに手にした絵本もあったようで、絵本を懐かしむ様子が見られた。実際に手に取り、自由に読むことから講座をスタートした。自ら読み聞かせを行うなど積極的な様子であり、関心の高さがうかがえた。保育検定を見据えた実技指導という側面だけでなく、絵本の魅力や絵本が子どもたちに与える影響について、高校生が自身の実感を伴いながら考える時間となった。

◇講座内容：第2回 お話をつくろう

- ①乳幼児期の言葉の発達の節目について理解する。
- ②乳幼児の発達に合わせて「お話」を創作する。

以上2点をねらいとして、演習形式で行った。発達について事例を交えながら講義し、その後、「お話」の創作を行った。創作した話はその場で披露しあった。「お話」という活動は、創作の技術とともに話す技術が求められるが、高校生は意欲的に取り組んでいた。

また、この日は、本学科1年生の学生（高城高等学校卒業生）をゲストスピーカーとして招き、先輩として保育技術検定に向けた対策等を話す時間を設けた。身近な先輩後輩という関係から、意見交換が活発に行われた。高校生にとって、保育技術検定を経験した先輩の話聞くことは、検定に向けた対策になることはもちろん、不安の解消といった精神的な支えにもなるように感じた。加えて、大学で学ぶことに対する興味や意欲を高める場にもなったようだ。本学科学生にとっても自身の学びを披露する場となり、互いに意義深い時間を過ごすことができた。今後もこの交流は継続していきたい。

◇「企業・郷土探究」講習会

日 時：平成30年10月11日（木）

14時30分～15時30分

対 象：1年生 37名

場 所：南九州大学

講座内容：子どもと絵本

保育・幼児教育に関心をもつ高校1年生に向けて講演を行った。

①絵本の種類（視点別区分）を知る。

②自分の絵本に対する興味（どんな絵本が読みたいか）を確認し、子どもにどんな絵本を読みたいか考える。

子どもだけではなく高校生でも大人になっても絵本を楽しめることを知ってほしいと考え、上記2点をねらいとし、グループ活動を行った。各グループに種類の異なる絵本（物語絵本、仕掛け絵本、写真絵本）を数冊準備した。絵本の種類について考え、どの絵本に興味を持ったか、その理由等について自由に意見交換する場を設けた。はじめは戸惑っていた高校生も、絵本を介することで徐々に話をする姿が見られた。絵本がもつ「人と人をつなぐ力」を少しでも感じる時間になっていればと願う。

2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のためのサポート 担当：宮内 孝

「ちびっこ運動会」とは、生活情報科2年生の生徒が高城幼稚園児を招待して実施する運動会のことである。この運動会の企画・準備そして当日の運営を行う体験を通して、今までの学びを活用させる。そして、実際に幼児にふれる体験を通して、幼児理解を深めたり、新たな学びを獲得させたりして、今後の学習への動機付けを図ることを目的としていた。

(1) 「ちびっこ運動会」開催に向けてのワークショップ

◇日 時：平成30年9月12日（水）

13時25分～15時55分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などについて、実技を交えて行った。

運動会種目については、年長児（5、6歳）にとって、簡単でしかも勝敗が明確にわかる運動遊びとして、宝運びゲーム、オセロゲームなどを紹介した。

また、高校生を幼児と見立てて実技をするなかで、子どもへの指示・説明のあり方や賞賛の仕方にもふれた。本学科学生も参加し、本ワークショップの運営をサポートした。

(2) 「ちびっこ運動会」の装飾等制作支援

◇日 時：平成30年9月26日（水）

13時25分～15時55分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「ちびっこ運動会」当日の装飾や手渡すメダルなどの制作計画の話合いに、本学科の学生3年生3名が参加した。

高校生は、制作物のイメージや制作手順などについて、グループ毎に話し合っていた。その話合いに、大学生も参加して助言を行った。

大学生は、保育・幼稚園実習や大学の授業での学びを活用しながら、高校生に具体的に助言をしていた。大学生から助言を得て、高校生は制作の

具体像を明確にした。

(3) チャレンジ運動教室でのワークショップ

◇日 時：平成30年10月29日（月）

9時20分～12時20分

◇場 所：南九州大学都城キャンパス

◇講座内容

「ア．ちびっ子運動会」開催に向けてのワークショップの学びを活用させることと、幼児の発達段階などの幼児理解を深めることを目的として、チャレンジ運動教室へ参加してもらった。

チャレンジ運動教室とは、地域の幼児（4歳から6歳）・児童（小学校1、2年生）とその保護者を対象とした運動教室である。本教室の企画・運営は、宮内と宮内ゼミの学生が実施している。

本教室に参加する子どもを6グループに分けて、大学生が当該グループの指導者となる。高校生は、大学生の補助を行いながら、子ども理解を深めていた。

(4) 「ちびっ子運動会」時の指導助言

◇日 時：平成30年11月7日（水）

9時50分～11時20分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「ちびっ子運動会」での、高校生の進行や子どもへのかかわり方について観察し、必要に応じて助言を行った。

高校生は、意欲的に子どもとかかわりながら運動会を進行していた。取組みが消極的な子どもに対しては、積極的に声かけを行ってその取組みを促していた。

競技内容は、子どもの発達段階に即した適切な内容であった、必要な用具についても、安全性に配慮して作成していた。

本学科2名の学生も、参観しながら高校生へ助言を行っていた。



チャレンジ運動教室での集合写真

(5) 「ちびっ子運動会」活動のまとめ

◇日 時：平成30年11月14日（水）

10時40分～11時20分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「ちびっ子運動会」の振り返りとして、「運動会で取り上げた種目の内容」と「運営に関わるマネジメント」のよさについて講義を行った。

運動会で取り上げた種目の内容については、幼児期に身につけておきたい「多様な動きが確保されていたこと」や挑戦意欲を高めさせるために必要な「やさしく、おもしろく」が確保されていた。また準備や進行が円滑に行われたことで「無駄な時間が少なかったこと」そして、子どもへの対応が笑顔で賞賛が多かったことで「明るく、穏やかな雰囲気であったこと」について指摘した。さらには、子どもの動きに応じた臨機応変な対応のよさについても指摘した。

このような生徒が計画・運営したことを取り上げてその意味づけをすることで、生徒の達成感やあるいは自己肯定感を高めるきっかけとなったようである。

ナタ・サボの取組みは、2年目となった。高校生の興味関心を踏まえた講座内容にしてきたが、改善の余地はある。高校生一人一人の課題達成の支援はもちろんであるが、子どもとかかわる保育士の楽しさをもっと味わえるような講座内容にしていきたい。